

■ 会誌編集の立場から



下村 匠*

本誌「プレストレストコンクリート」はプレストレストコンクリート（以下PC）工学会（元PC技術協会）誌として60年間刊行が続けられている。本誌は、民間会社、事業者、大学などからの29名の委員により構成される編集委員会により毎号作成されている。私は2010年より編集に携わっている。今回はこの巻頭言の場を借りて、「プレストレストコンクリート」のPRをしたい。

「プレストレストコンクリート」はPC工学会の会員に届けられる学会誌であり、年間6回発行されるわが国唯一のPCに関する専門誌である。一般号と特集号を交互に発行し、年3回の特集号のうち1回は建築特集、2回はその時々の話題などを鑑み特集を企画している。レギュラーの記事の種類には「論説」「解説」「工事報告」「設計報告」「研究報告」「報文」などがあり、編集委員会から執筆を依頼する場合と著者から自発的に投稿される場合がある。「海外文献」「講座」「書籍紹介」「サロン」などは編集委員会において企画運営している記事である。PC工学会の会員を主な読者としていることから、全体としてお堅い、いや密度の濃い技術的な内容が多い。

先日、読者の方から匿名で近年の本誌の編集姿勢に対する厳しいご意見をいただいた。本誌を毎号丁寧に作り上げ世に出すことでPCに関する最新情報を正しく会員に届ける責任をあらためて痛感すると同時に、本誌を心待ちにし、隔々まで目を通してきている読者がいることを再認識した。編集委員会一同、これからはなお一層気を引き締めて、会誌の編集に真摯に取り組んでゆく所存である。

さて、本誌が本年1月発行の60巻1号から雰囲気が変わったことをお気づきであろうか。

まず表紙のデザインを刷新した。構造物の写真を強調し、全体として空白の多いシンプルなデザインとした。「あ、『プレストレストコンクリート』変わったね」と興味をもってもらうことと、PC橋や建物の外観の美しさに好印象を抱き、構造物ならびに本誌に親しみをもつ人が増えてくれることを期待している。ページをめくれば、グラビアページと称する構造物の写真を掲載したカラーページを設けたことも新しい試みである。インフラツーリズムといった言葉も登場した今日、PC構造物に関して文字媒体の技術情報だけでなく、視覚的、感覚的に訴えることも重要であると考えている。職場や大学の研究室、図書館などに開架され、会員以外の人の目にも留まり手に取ってもらえることも望んでいる。

編集委員会では、数年前から新企画について検討するワーキンググループを立ち上げて、新しい魅力ある企画についてアイデアを出し合っている。上述の「書籍紹介」もそこから生まれたシリーズである。これからもいくつかの楽しい新企画が誌面に登場する予定である。

最後に「プレストレストコンクリート」に「論文」が掲載できることをあらためて紹介したい。会誌の原稿に「論文」という投稿区分は以前からあったものの、投稿数が多くなく、久しく活発とはいえない状態が続いていた。しかし、数年前に投稿が複数あったことを機に、投稿から登載までの手続きフローを見直し、編集体制を整えた。PCに関する国内唯一の学会として、技術的、学術的に価値が高い論文を恒常的に登載し、PC工学会ならびに本誌「プレストレストコンクリート」の存在を高めてゆきたい。読者諸氏に積極的な論文投稿をお願いする次第である。

* Takumi SHIMOMURA：本工学会理事
長岡技術科学大学 環境社会基盤工学専攻 教授